

大分県こどもの生活実態調査結果について

調査概要

- (1) 調査対象 小学5年から高校3年までの全8学年
小学5年と中学2年の保護者
- (2) 調査期間 令和6年6月21日～同年7月19日
- (3) 調査方法 無記名のWeb調査
- (4) 設問数等 児童生徒:最大66問、保護者:最大26問
- (5) 回答率
こどもの生活実態調査 71.8%
ヤングケアラー実態調査 84.3%

項目	調査対象者		回答数		回答率(前回との差)		前回調査
	児童生徒(小5・中2)	保護者(小5・中2)					
こどもの生活実態調査	児童生徒(小5・中2)	39,012人	17,648人	28,037人	90.4% (+2.6)	71.8% (Δ14.0)	R元年度
	保護者(小5・中2)		10,389人		53.2% (Δ30.5)		
ヤングケアラー実態調査	児童生徒(小5～高3)	78,826人	66,474人		84.3% (+12.3)		R3年度
合計(実人数)	98,332人		76,863人		78.1%		

- ・こどもの生活実態調査：保護者については前回は学校が紙媒体でとりまとめたため、今回はWebによる個人回答に変更したため、回答率が低下。
- ・ヤングケアラー実態調査：教育部門と共管したことで回答率が上昇。

1 こどもの生活実態調査

(1) こどもの意見

①大人や環境への認識

- <日頃大切にされているか>
「そう思う、どちらかといえば」
93.4%
- <大人は意見を聞いてくれるか>
「聞いてくれる、どちらかといえば」
93.6%
- <遊びや体験機会の充実度>
「十分ある、ある程度ある」
87.7%

②自分への認識

- <自分らしさはあるか>
「そう思う、どちらかといえば」
84.3%
- <今の自分が好きか>
「そう思う、どちらかといえば」
71.1%
- 生活の満足度
10段階評価で平均8点
(おおむね満足度の高い6点以上は全体の83.4%)

③将来への認識

- <将来設計を考えた機会の有無>
「考えた機会がある」
74.3%
- <将来に明るい希望を持っているか>
「希望がある、どちらかといえば」
79.4%

④結婚・子育てへの認識

- <将来、結婚したいと思うか>
「結婚したい」 「結婚したくない」
50.7% 10.2%
- <こどもは、何人欲しいか>
「0人」 「1人」 「2人」 「3人以上」
17.9% 15.4% 44.1% 19.5%
- 0人を含む平均値：1.71人
0人を除く平均値：2.10人

(2) 保護者の意見

現在の暮らしが

区分	大変苦しい	やや苦しい	普通	ややゆとりがある	大変ゆとりがある
割合(%)	9.2	28.4	51.5	9.0	1.3
前回との差	Δ0.2	Δ0.3	Δ0.5	+1.2	+0.5

子育てに必要な援助について (上位5つ)

区分	保育や学費の軽減	手当の充実	医療・健康サポート	奨学金制度の充実	放課後の学習支援
割合(%)	60.8	52.8	29.1	27.1	18.1
前回との差	+6.1	+4.8	Δ9.2	+7.6	Δ0.6

保育料等軽減、手当充実など経済的な支援を求める内容が上位を占めた。また、医療サポートや放課後の学習支援を求める回答も上位にあがった。

塾や習い事について

区分	スポーツ	学習塾 進学塾	学校の 部活動	絵画・音楽などの 芸術の習い事	英会話・珠算 などの習い事	していない
割合(%)	40.8	25.7	21.4	20.5	13.6	19.0
前回との差	Δ2.4	Δ3.2	-	+6.4	Δ0.5	Δ4.4

スポーツや塾に通う割合が減少し、芸術に関する習い事の割合が増加。通っていないこどもは約2割と減少。

今後の取組み

現行計画に引き続き、次の4つの基本方針で総合的に支援を行う。

- 教育の支援
- 生活安定への支援
- 保護者の就労支援
- 経済的支援

約5割が普通と感じている一方で、約4割弱の家庭が苦しいと回答。

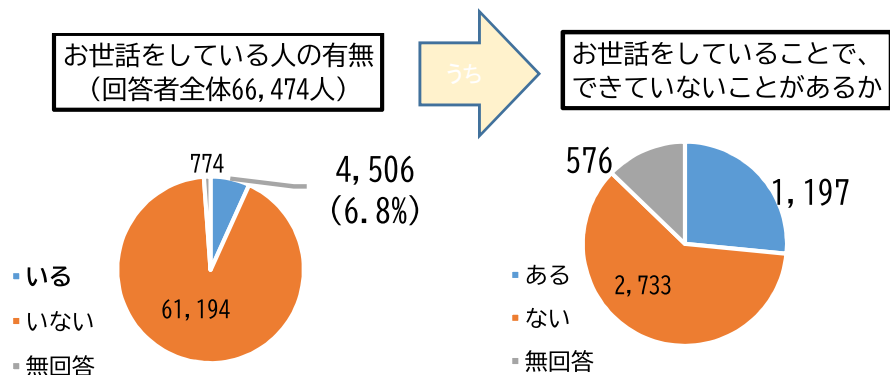
2 ヤングケアラー実態調査

(1) 調査結果の概要

①回答者の約**2.7%** (1,773人)が、「世話をしているためにやりたいけれどできていないことがある」と回答または「無回答」である。

この割合を、今回の調査対象者 (78,826人) に当てはめると、**世話をしていることで困りごとを抱えている (ヤングケアラー疑いの) 児童生徒が県内で少なくとも約2,100人いるものと推計**される。

(R3調査では、約1.3%、約1,000人と推計)



お世話をしている人(複数回答)

続柄	割合 (前回との差) %
兄弟姉妹	70.5 (+ 7.6)
母	32.6 (+10.0)
父	23.7 (+17.1)
祖母	15.2 (+ 5.6)
祖父	10.2 (+ 4.8)

お世話の内容(複数回答)

内容	割合 (前回との差) %
家事(食事の準備、掃除、洗濯)	48.7 (+ 6.9)
話し相手になる	44.5 (+22.0)
兄弟姉妹の世話や保育所等の送迎	27.9 (+ 9.6)
入浴やトイレのお世話	27.4 (Δ 3.1)
外出の付き添い	25.7 (+ 2.1)
目が離せない家族の見守り	17.4 (Δ29.7)

②ヤングケアラー認知度は約**66.0%**とR3調査より向上 (R3:約29%)

ヤングケアラーという言葉を知ったきっかけ (複数回答)
学校61.7%、テレビや新聞等49.7%、SNS等28.7%、広報・チラシ等24.7%、友人等5.4%、イベント3.7%

③ヤングケアラーの約**48.0%** (852人)が、「相談経験がない」と回答。

この割合を全体に当てはめると、**ヤングケアラー2,100人のうち相談経験がない児童生徒が少なくとも約1,000人いるものと推計**される。

相談するほどの悩みではない73.9%、状況が変わると思わない7.0%、話しにくい6.5%、知られたくない4.9%、誰に相談するのか分からない4.4%、相談できる人が身近にいない2.2%

お世話のためにできていないこと(複数回答)

内容	割合 (前回との差) %
自分の時間がとれない	14.2 (Δ4.0)
宿題や勉強をする時間がとれない	9.5 (Δ2.6)
睡眠時間が十分にとれない	7.9 (Δ3.2)
友人と遊ぶことができない	6.9 (Δ3.4)
遅刻や早退、登校できない	3.3 (-)
特になし	60.7 (+2.4)
無回答	12.8 (+2.3)

周囲が早期に気付き、こどもの状況に応じた支援につなぐとともに、支援を行いながら家庭状況を見守ることが重要

(2) これまでの取組み

R3年度	実態調査により約1,000人存在と推計
R4年度	専用相談窓口(電話・SNS)の設置、児童・生徒に相談先カード配布
R5年度	・県庁に専門アドバイザーを配置、教員など支援者向け研修会の開催 ・全市町村に相談窓口設置(178件の相談、うち49件を福祉サービス等につなぐ)
R6年度	2回目の実態調査実施

(3) 今後の検討事項

- ・市町村相談支援体制の更なる充実に向けた検討
- ・専門アドバイザーの配置効果の検証と継続配置の検討